

〔セクションⅠ〕基礎基本の理解度アップ

知的障がいの特性と基本的な対応



研修動画は
こちらをクリック
又は読み込み

1 知的障がいとは

ア 知的障がいの定義

知的障害とは、一般に、同年齢の子供と比べて、「認知や言語などにかかわる知的機能」の発達に遅れが認められ、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であり、特別な支援や配慮が必要な状態とされている。また、その状態は、環境的・社会的条件で変わり得る可能性があると言われている。

知的機能



適応行動

「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省（令和3年6月）

イ 知的機能の発達の遅れとは

知的機能とは

- ・ 認知
- ・ 記憶
- ・ 言語
- ・ 思考
- ・ 学習
- ・ 推理
- ・ 想像
- ・ 判断

等



同年齢の子供と比較した際に、平均的な水準より明らかな遅れがある。

知的機能の発達の明らかな遅れ

※検査の誤差、身体・心理の状態、検査者との信頼関係の影響も考慮する必要があります。

- ・ おおむね知能指数が70～75程度以下としている。

知能検査の結果がほぼ同じでも、生活年齢や経験などによって状態像が大きく異なることに留意が必要です。



ウ 適応行動の困難性とは

適応行動とは

- 他人との意思の交換
- 日常生活や社会生活
- 安全
- 仕事
- 余暇利用 等



その年齢段階に標準的に要求されるまでには至っていない。

適応行動の習得や習熟に困難があるために、
実際の生活において支障や不利益を来している状態

必要な支援や配慮無しに、適応行動の習得が可能であるかどうかを把握しておくことが大切です。



❖ 特別支援学校学習指導要領に示されている 適応行動の困難さ

○ 概念的スキルの困難性

- ・ 言語発達：言語理解、言語表出能力など
- ・ 学習技能：読字、書字、計算、推論など

○ 社会的スキルの困難性

- ・ 対人スキル：友達関係など
- ・ 社会的行動：社会的ルールを理解、集団行動など

○ 実用的スキルの困難性

- ・ 日常生活習慣行動：食事、排泄、衣服の着脱、清潔行動など
- ・ ライフスキル：買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など
- ・ 運動機能：協調運動、運動動作技能、持久力など

2 知的障がいの特徴と困難さの理解

読字・書字・算数などの習得



柔軟に考え、物事に対処すること



コミュニケーションや相手の意図を正確に理解すること



食事や身支度など、身の回りのことの自立



3 年代別で起こりやすいこと

小さい頃

学校に通う時期

大人になると…



発達がゆっくり



勉強



友達関係



仕事 お金の管理



家事や育児…

知的障がいのある方が感じるいろいろな気持ち

分からない
自信がない

話についていけない
どうしたらいいの？

孤立 また怒られた…
精一杯やっているのに…

4 分かりやすく伝える工夫

ア 「視覚的な情報」で伝える

【困難さ】

- 目に見えないものや抽象的な概念を理解することが難しい。



【関わり方のポイント】

- イラストやカード、写真など、視覚的な情報を活用しながら、分かりやすく伝える。
- タブレットにイラストやカードを取り込み、説明と合わせて提示する。



イ 本人の理解度に合わせて具体的に伝える

【困難さ】

- 抽象的な言葉や難しい言葉を理解することが苦手。



【関わり方のポイント】

- 言葉の理解の状況について確認する。
- 本人が知っている言葉を使って説明したり、曖昧な表現は避け、具体的に伝える。ときには手本を示したりする。

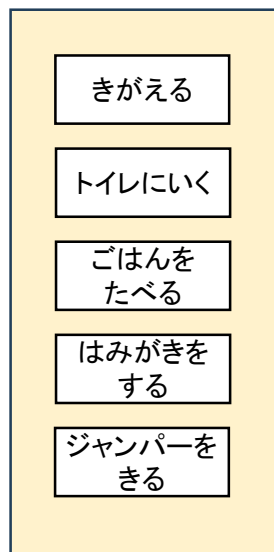
ウ 一度にたくさん伝えない

【困難さ】

- 内容が抜け落ちてしまったり、忘れてしまったりする。

【関わり方のポイント】

- 本人の理解度に応じて、一つひとつ伝える。
- 必要に応じてやることを具体的にメモに書いて伝えたり、渡したりする。



演習

❖ 例えば、こんな時、どのような関わり方の工夫が考えられるでしょうか…

①



分からずに「はい」と
言ってしまう

②



頼まれたことを
忘れてしまう

③



案内板などの意味を
理解することが難しい

【演習シート】

①



分からずに「はい」と
言ってしまう

②



頼まれたことを
忘れてしまう

③



案内板などの意味を
理解することが難しい

--	--	--